

# 情報収集・分析能力向上研修

～データを有効に使うって“ロジカルで伝わる”報告・説明が出来る～

## 1. 研修の目的

- ❖ 行政・自治体、ならびに民間企業団体における、一般的な実務者および管理職にとって必要な「情報収集・分析力」とは、難しい統計学的なデータ分析ではなく、施策の推進根拠や企画立案の信用性、問題解決の論拠等として提示できる、データの基礎的な加工力と言えます。
- ❖ 日々の業務において発生する課題や仮説、主観的な結論を、数字(データ)を下地にして、いかに客観的に「筋の通った情報、まとまりある証拠」にしていくかという「ストーリー化」を習得します。
- ❖ また、その情報を「いかにわかりやすい形で処理し、公表するか」にも焦点をあて学習することで、実際の業務にしっかり反映できるスキルやセンスを養う機会とします。

## 2. 研修内容

対象者：一般職員～監督者

	内容
9:00	<b>開講 オリエンテーション</b> <b>1. 情報収集力・分析力とはなにか</b> 1) データ分析聞いて感じること・日々の悩み 2) 施策や課題の提示には、必ず「根拠」の添付あり 3) 収集・分析の前にそもそも必要なこととは
12:00	<b>2. 仕事を進める上でデータはなぜ必要か ～数字は、人を「納得」させる～</b> 1) データの重要性 2) 感情が動いても、数字でしか結論が出せない 3) データを相棒にすると、仕事が楽しく円滑に 4) 課題にはマトリクス思考で客観性を持たせる 5) 逆算思考で、分析の全体像を理解する
13:00	<b>3. 仮説は型(枠組み)やツリーでしっかり要素を分解</b> 1) 課題は言語化されているWHHT・WHYで分解する 2) 優先順位の付け方とは 3) 平均【分量】とばらつき【標準偏差】
	<b>4. 相関関数を用いて、データの相互作用の有無を見る</b> 1) セルを用いた相関関数の出し方と読み方 2) 2軸の視点で関係性を分析する 3) 疑似相関(直接的な関係性薄)と第三の要因 4) 時間軸をずらしても、因果関係が大きく崩れないかのチェック
16:30	<b>5. 立証データは、伝えて初めて生かされる</b> 1) 結果と報告は別物 2) 受け手に合わせた表現手法 3) 見せる範囲・内容は「受け手」目線でシンプルに 4) そもそもの目的～提案・報告のゴールまで一貫性を 5) まとめ